

# 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/03/07号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



## 【現状確認】



(注) 2021/09/12まではWTI原油価格連動型上場投信のデータ (出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

## ロシア産の供給不安で115ドル突破の急伸

NY原油先物相場は、1バレル=116.57ドルまで上値を切り上げ、2008年9月以来の高値を更新した。2月24日にロシア軍のウクライナ侵攻が始まったが、当初は両国の圧倒的な戦力差から戦闘状態が早期に終結するとの楽観的な見方が、原油相場を圧迫していた。しかし実際には、週を通じて激しい戦闘状態が続き、各国が厳しい対ロシア制裁を打ち出したことが原油相場の急伸を促している。2月26日に欧米がロシアを国際ネットワークSWIFTから排除することを決め、その後はロシア産原油取引の規制を巡る議論も活発化したことが、急伸地合を促した。シェール革命後の最高値を更新している。

3月1日には、国際エネルギー機関 (IEA) が臨時閣僚会合を開催し、6,000万バレルの備蓄放出を決めた。しかし、マーケットではロシア産の供給不安解消には不十分と評価されている。また、2日には石油輸出国機構 (OPEC) プラス会合が開催されたが、3月に続いて4月も日量40万バレルの増産対応を行うことが合意された。ただ、特段の原油高対策が講じられなかったことが、逆に原油高を加速させた。

米エネルギー情報局 (EIA) 発表の米石油在庫 (2月25日時点) は、原油が前週比260万バレル減、ガソリンが47万バレル減、石油精製品が57万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読み下さい。

## 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

## 【展望】

## ウクライナ情勢次第では更に急伸も、高ボラティリティが続く

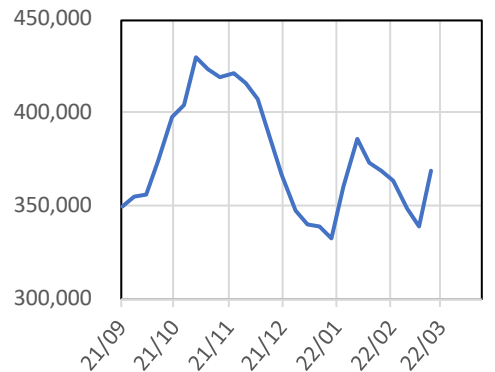
ウクライナ情勢に左右される展開が続く。ウクライナで戦闘状態が続く限りは、各国が対ロシア制裁のレベルを引き上げ続けることになり、ロシア産原油の供給不安が急伸対応を促すことになる。既に決済面でロシア産原油の取引は困難な状態になっており、ロシア産のウラル原油はブレント原油に対して28ドルを超えるディスカウント状態になっている。ただ、現状ではロシア産原油取引は完全に規制されている訳ではないため、原油取引そのものに強力な制限を課すような制裁が行われると、一気に150ドルの節目を迫るようなリスクまで想定しておく必要がある。

一方、既に二度にわたって停戦協議が行われており、停戦合意への期待感が強まると、少なくとも一旦は急反落する可能性を抱えている。ロシアとウクライナの主張の隔たりが大きいことで早期の合意形成は困難との見方が強いが、仮にウクライナ情勢が急展開を見せる事態になると、金や穀物相場などと連動して急反落する可能性は想定しておきたい。

ただ、原油相場の鎮静化にはロシア産原油供給減少のショックを限定することが求められ、「ウクライナ停戦合意=ロシア産原油取引の正常化」ではないことに注意が必要。国際社会がロシアとの関係正常化を進めるのかは、停戦合意の有無とは別の議論になる。

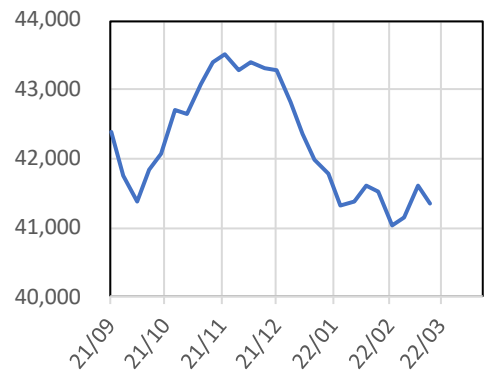
イラン核協議で合意に達すると、瞬間的な下振れリスクが高まる。いつ結論が出てもし思議ではない状況になっている。本格的な増産には時間が必要とみられるが、合意が実現すると一時的に利食い売りが誘われ易くなる。15日にはOPEC、16日にはIEAがそれぞれ月報を発表するため、現状にどのような評価を示すのかにも注目したい。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



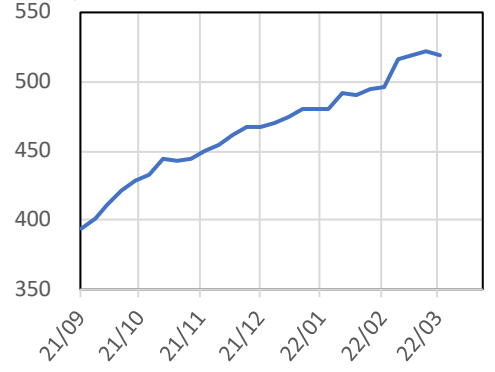
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

## 【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

### 小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は  
ツイッターで

